

平成28年度学校課題研究

1 昨年度の研究課題 成果と反省

豊かなコミュニケーション能力の育成

～望ましい人間関係づくりを目指して～ I

「関わり合いを豊かにする言葉の充実」 ～挨拶の推進 心を潤す言葉の浸透～

- ☆成果
- ・生徒会活動や専門委員会等で、挨拶の推進を意識しながら、新たな活動と取り組んだ。
 - ・たすきや横断幕の使用により、挨拶運動に関わる生徒の自覚が高まり、活性化した。
この挨拶運動は従前より日進中学で実施されている日課であるが、遅刻者をほとんど出さず1日がスタートできる、学校生活の規律づくりに一役かっている。
 - ・学校生活全体で、生徒自身「心を潤す言葉」による適切な言葉かけの機会が増えた。
 - ・小中連携の挨拶運動が契機となり、『さいたま市こども会議』の一環として「日進中学校区いじめ撲滅こども会議」が実施できた。出席した生徒たちは挨拶推進の自覚を高められた。
 - ・関係する小中学校職員との合同研修会を行えた。「挨拶に関するアンケート」の実施結果を共有できたことにより、小中連携の意識がいっそう高まった。
- ▼課題
- ・挨拶のよしあしは可視化しづらい。さらに継続して推進する必要がある。
 - ・挨拶や返事、節度ある言葉遣いが、部活動と比して学級生活では必ずしも十分ではない。部活動の教えが日常に浸透するためには、「顧問の指導だから」とか「部活動のしきたりだから」とかという『形』を離れ、もっと本源的な必要感を生徒に持たせることが肝要だ。
 - ・『挨拶の推進』と『心を潤す言葉の浸透』とは本来似て非なるものである。部活動の挨拶は外形的に調べやすいのに対し、学級生活での挨拶は『心を潤す言葉』の側面が強いため調べづらいのはこのためである。学校が目指すのは、生徒の内面に浸潤する『心を潤す言葉』の育成にあるのは自明といえる。1年限りの取り組みとせず、折りにふれて継続指導していくことが肝要である。たとえば、大きな声の出づらい生徒には多くの体験を通して自信を持たせるよう配慮したり、たとえ関わりの薄い相手であっても率先して大きな声で挨拶を交わせるよう心の涵養を図ったりという形で。

2 今年度および来年度の研究課題と計画訪問の内容との連携について

「豊かなコミュニケーション能力の育成」
～望ましい人間関係づくりを目指して～ II
「話し合い活動の充実」
※問題解決に向けての話し合い活動のルールや
スキルの向上をどう進めていくか。



「豊かなコミュニケーション能力の育成」
～望ましい人間関係づくりを目指して～ III
「特別支援教育の充実」
※分け隔てなくさまざまな立場の人と関わってける
生徒の育成をどう進めていくか。